

## サマースクール 2022 in 函館

北海道教育大学函館校

地域教育専攻 4年 三瓶 夏希

「サマースクール2022 in函館」は、1996年に北海道教育大学函館校の教員と学生を中心に、函館市内および近郊の市町村に在住している特別支援学級や特別支援学校に在籍している障害児や特別な教育的ニーズのある児童を対象に、長期休業中の余暇を支援するために立ち上がったプログラムであり、今年で26年目という歴史がある活動です。現在は、函館校の教員と活動を支えるボランティア学生を中心に運営しています。また、昨年度から「幼稚園ブロック」が新設され、児童発達支援センターや認定こども園などに在籍している年長児を対象に、就学体験を行っています。

活動は「幼稚園ブロック（1グループ）」「小学生ブロック（2グループ）」「中高生ブロック（2グループ）」の3ブロックに分かれ、それぞれの発達年齢を考慮しながら教材作りや活動を実施しました。

今年度は、昨年度より1日長い4日間の開催とし、長年行ってきためばり活動（巨大な布に絵を描く活動）や縁日に加え、コロナ禍になって初めて外出活動を行いました。ブロックごとの活動も充実しており、幼稚園ブロックでは小学生が使っている教室での生活体験や、校内探検を実施しました。小学生ブロック、中高生ブロックでは、制作活動や運動会、実験活動などを行いました。

コロナ禍であっても多くの児童生徒が毎年心待ちにしている本活動は、「子どもたちによりよい夏休みを」という趣旨のもと数カ月前から準備を重ねてきました。参加した児童生徒にとって、普段の学校生活では経験できないものばかりだったのではないかと思います。活動当日は、校内が子どもたちと学生の笑顔であふれ、参加者全員のかけがえのない思い出になったことと思います。

本活動を今年も無事終えられたのは、学生ボランティアや高校生ボランティア、社会人ボランティアの方のご協力があったからだと感じています。これからもサマースクールを開催できることに感謝の気持ちを忘れず、子どもたちのために、私たちができることを全力で取り組みます。

サマースクール in 函館が「令和4年度『障害者の生涯学習支援活動』に係る文部科学大臣表彰」に選ばれ、令和4年12月6日（火）に授賞式が行われました。

この表彰は、障害者の生涯を通じた多様な学習を支える活動を行う個人又は団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえて文部科学大臣から表彰されるものです。

今後も障害のある児童生徒はもとより、特別な教育的ニーズのある子ども達の『第3の場』として活動を提供できるよう、実行委員会の学生を中心に尽力してまいります。



めばり活動の様子

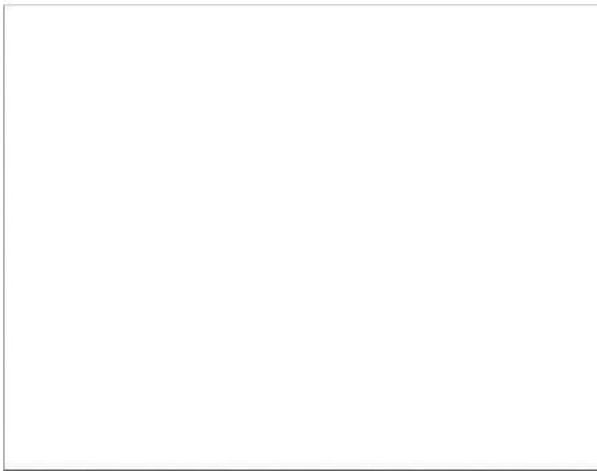
令和4年8月16日 北海道新聞（夕）10面

# 夏休み 思い出いっぱい

## 道教大生ら 子どもたちと運動会

障害のある子どもたちに夏休みを楽しく過ごしてもらおうと、道教大函館校の学生らが「サマースクール2022 in 函館」を函館市立八幡小で開いた。子どもたちは学生と運動会やお絵かきをして夏の思い出をつくった。

（野口今日子）



手作りした道具で学生と一緒にシャボン玉を飛ばす子どもたち

1997年から毎年開催しており、今年で26回目。同大の学生や卒業生ら約130人がボランティアを務め、函館市と近郊の幼稚園児から高校生まで18人が参加して、6月9日の4日間を実施した。

7日に行われた実験では、子どもたちが学生と一緒に針金や色とりどりの毛糸を使ってシャボン玉の道具作りに挑戦。完成後、子どもたちがシャボン玉を浸した棒を動かすと、青空に向けて大きなシャボン玉が浮かび、歓声が上がった。同大4年で実行委員長の三瓶夏希さん22は、「子どもたちが元気よく楽しんでくれてとてもうれし」と笑顔を見せた。

令和4年12月11日 函館新聞14面

# 函教大「サマースクール」

## 障害者の生涯学習支援

# 文科大臣表彰

障害児を対象に毎年休みに開いている道教育大函館校の「サマースクールIn 函館」が、文部科学省が選定する今年度の「障害者の生涯学習支援活動」で大臣表彰を受賞した。1996年から長年続く地域に根差した学生の活動が評価された。（佐藤由紀彦）

## 長年続く活動評価

サマースクールは、同大で欠かすことのできない学生で組織する実行委が企画・運営し、毎年8月上旬に開催。道南在住の障害者を持つ児童生徒が対象の夏期別支援教育IIは、活動に携わった関係者に感謝した上で26日を迎え、学生や市民ボランティアが子どもたちにはさまざまな体験を提供している。学生を中心に活動の幅を広げながら発展している。参加者として、三瓶夏希さん（24）

年は「これまでの活動が認められてうれしい。ニーズがあるので継続したい」とし、松田慶善副委員長（同）は「今後社会人ボランティアとして経験を引き継ぎたい」と話していた。

同表彰は障害者の生涯学習を支援する活動が対象で、今年度は56の個人・団体を選定。6日に表彰が行われ、オンラインでも配信された。

表彰状を手にする（左から）松田さん、三瓶さん、細谷教授